

# 廃棄物からサーキュラーエコノミーを確立し、 カーボンニュートラルを実現する 人々に喜ばれ、社会に必要とされる 環境創造企業としての使命を果たします

代表取締役 社長執行役員 山本 哲也



## 1 ダイセキの使命と原動力

### 経済と環境の両立に貢献する創業以来の ダイセキの使命

私たちダイセキは、1945年に油脂製品製造業から始まりました。当時の日本は貧しくまた1ドル=360円と輸入品の価格も高かったため、石油は貴重な資源でした。限られた貴重な資源を活かす発想から、捨てられる廃油に価値を見出し、技術で再生させるという常識破りのイノベーションを成し遂げたのです。やがて日本経済の成長とともに、人々の豊かな暮らしが実現される一方で、深刻化していく公害問題にも目を向けて、ダイセキは経済と環境の両立に貢献してきました。これは過去に限った話ではありません。以降もダイセキは廃水、汚泥、鉛など産業廃棄物のリサイクルを世に先駆けて取り組み、汚染土壌浄化やバイオディーゼル燃料製造にも乗り出しています。

環境汚染の原因となる廃棄物を、価値ある資源に蘇らせる——ここにダイセキの最大の強みがあります。時代の変化、製造業のニーズに合わせて、私たちはイノベーションを起こし、廃棄物からの価値創造という困難をやり遂げてきました。廃棄物を原料とするためには、どんな方法があ

るのか? 誰が使ってくれるのか? どこから出るのか? 経済的に成り立つプロセスは? お客様やお取引先のお役に立ち、そして、社員や地域の人々の豊かな生活を実現したいという「想い」を胸に知恵と工夫と行動力で挑戦を続けてきました。その「想い」を一言で表したのが「限られた資源を活かして使う『環境を通じ社会に貢献する環境創造企業』」というパーパスです。

## 100年続く企業を目指して

このパーパスを実現しながらダイセキを100年続く企業にしたいと考えています。そのために必要なことは2つあると思います。ひとつはパーパスに込めた想いを次世代に確実に引き継いでいくこと、もうひとつは「社員が家族に誇れる会社」にすることです。それは、お客様から必要とされ、ひとりひとりの社員がやりがいをもって輝く会社、社会から信頼・期待され、期待に誠実に応える会社だと思っています。私は創業者から受け継いだこの理念を次の世代にバトンタッチしていきたいと考えています。

創業以来、私たちは世の中に役立つ技術を追い求めてきました。そして「100年続く企業」として、子どもたちとその次の子どもたちの時代まで輝きつづける企業でありたいと考えています。このような未来を実現するためにダイセキが果たすべき使命は、時代の先を行くイノベーションに挑み、その強みを世の中に広く役立てられる企業になることだと考えています。

## 明快な経営理念から育まれたダイセキのイノベーションマインド

ダイセキのイノベーションを生み出す原動力は、創業者・伊藤治雄が打ち立てた「発想、構想、構造、実行」という明快な経営理念です。これは特定の事業にこだわるのではなく、時代の流れとニーズをとらえて柔軟に事業を変化させるマインドを育みました。既存の常識や技術にとらわれず、自由に「発想」して、新たな技術を生み出す「構想」を打ち立てる。次の「構造」を作り、最後に「実行」する。

特に「構造」が事業の成否を握るポイントです。構造とはリーダーやチームといった組織づくりのことを指しています。自分事として構想を実行につなげる熱意を持ったリーダーと、それを支えるチームが出来れば、前例のない挑戦であっても、世の中をより良く変えることが出来るでしょう。



この「発想、構想、構造、実行」をもとに、常に挑戦をしつづける精神がダイセキの成長力の源泉であり、DNAのなかに受け継がれています。

## 2 人的資本強化

### 「社員」を最高の経営資源に 「VISION2030」達成とその未来へ

「100年続く企業」を実現するためのマイルストーンとして10年後に向けた長期経営計画を立てたものが「VISION2030」です。現在、ダイセキでは「VISION2030」達成に向けて全社を挙げて邁進していますが、その基盤となるのがひとりひとりの社員のチャレンジ精神とモチベーション、さらに知識習得やスキルアップの取り組みです。ダイセキでは「社員」を最重要の経営資源と考えてきました。社員が高いパフォーマンスを発揮できるように、社長就任以来、私が最も大切にしてきたのが、第一に「社員の健康」、第二に「社員の安全」、第三が「コンプライアンスの遵守」です。

ダイセキは、社員の健康と安全を第一優先にする会社です。また、主力事業の産業廃棄物処理事業は、厳格な廃掃法に基づいた許認可事業です。お客様の信頼に応え、お客様の利益を守るためにコンプライアンス遵守も誠実に遂行します。そこから100年続く企業としてのダイセキの価値が生まれ、その過程として「VISION2030」が必ず達成されていくものと考えます。



## 社員の活躍フィールドを広げて、ダイセキの成長を皆で分かち合う

毎年未来ある有望な新入社員が私たちの仲間に加わっていますが、環境と経済の両立という使命に大きな可能性を感じ、当社を志望する人が増えていると実感します。それぞれの社員の志望に応え、その能力を引き出す階層別研修、マネジメント研修、資格取得支援制度など新たな知識やスキルを習得する場を提供し、社員のさらなるモチベーション向上と自己実現のサポートに取り組んでいます。また、今後は給与や昇給制度を更に充実させて社員のエンゲージメント強化を図ります。

ダイバーシティ推進においては、近年当社に営業職や技術職として入社する新入社員は男女半々の割合であり、会社全体の女性比率が年々上昇しています。様々な社員が活躍できるように、育児、介護などに関わる福利厚生制度を充実させ、女性管理職や男性育休取得者の増加に向けた社内教育や職場環境の整備も進めています。

このたび社員が会社の成長に向けて努力するモチベーションを高めるために、新たに従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブ制度の導入を決定しました。社員がダイセキの株を未来に役立てて、ダイセキの成長を皆で喜び、分かち合っていければと考えています。

## 3 新規事業の開発

### 一般廃棄物が“資源”に生まれ変わる サーキュラーエコノミー事業

ダイセキを100年続く企業とするために、今後の社会変化を見据えたビジネスに取り組む必要があります。そこでダイセキはサーキュラーエコノミーとカーボンニュートラルを軸とする新規事業の開発に取り組んでいます。蒲郡市が推進する「サーキュラーシティ蒲郡」プロジェクトでは、一般廃棄物を活用したバイオマス燃料発電の事業化に向けた実証実験を進めています。私たちは産業廃棄物処理事業者ですが、蒲郡市から頂いた千載一遇のチャンスを活かし、日本の一般廃棄物の処理状況を一変させる大きな挑戦に乗り出しています。ダイセキは家庭から出る一般廃棄物をバイオマス燃料に転換する実証実験を行いました。将来的にはこのバイオマス燃料を発電に活用することを構想しています。ごみ焼却施設の老朽化問題に悩み、統廃合する自治体が増えてきています。このような社会課題の解決に向けて、ダイセキは蒲郡市と共に焼却ごみの削減とクリーンなエネルギーの供給を実現するサーキュラーエコノミー型ビジネスの確立を目指します。

### サーキュラーエコノミーとカーボンニュートラル に貢献するアンモニア回収事業 「VISION2030」達成に向けて

廃棄されていたアンモニアを回収して工業用原料やクリーンな燃料として活用する新規事業を検討しています。アンモニアは肥料や化学製品の原料として、また燃焼時にCO<sub>2</sub>を排出しない、石油を代替する燃料として注目されています。従来のアンモニア製法では、製造時に大量のCO<sub>2</sub>が発生する課題がありましたが、ダイセキでは名古屋大学発ベンチャーのSyncMOF社と共同で、CO<sub>2</sub>を発生させない新たなアンモニア回収技術を開発しました。混合ガスをMOF(金属有機構造体)に吸着させることで選択的にアンモニアを回収できる新技術です。国内では年間100万トンを超えるアンモニア需要があり、半導体製造工場の増加でますます需要は高まります。MOFの精度向上と販路開拓を進め、実用化を進めていきます。

さらに、杉本商事・杉本紙業とのM&Aで廃プラスチック

や古紙のリサイクルの新規事業にも乗り出しています。新境地を拓くM&Aや新規事業開発の案件が5件進行中です。「VISION2030」では営業利益250億円を目標に掲げていますが、このうち50億円をこれらの新規事業から生み出したと考えています。

ダイセキは創業以来、環境と経済の両立に取り組んできました。私たちは真面目に廃棄物と向き合い、廃棄物をゴミではなく、資源として見る考え方をDNAとして受け継いでいます。私たちは製品としての使命が終わった後の廃棄物をリサイクルすることで、再度資源として活かしながら環境保全に取り組んできました。ダイセキはこのような考え方のもとで、持続可能で豊かな社会と人々の幸福の創出に向けて社員と共に挑んでいきます。

## 4 ダイセキのビジネスの現状と未来

### 人々に喜ばれ、社会に必要とされる インフラとしての貢献

2024年元日、石川県能登半島を震源とする大地震が発生しました。ダイセキでは即時に緊急体制を組んで、北陸事業所の社員と家族の安全を確認するとともに、2日朝から工場設備を1日ばかりで総点検し、3日朝からは罹災した企業の復旧支援に出勤しました。地震で破損した配管やタンクから漏洩した薬液等の処理、浄水場の復旧支援などダイセキの機動力、知見と処理能力が必要とされました。北陸以外の事業所からも応援に駆けつけ、オールダイセキで石川県、富山県の罹災企業の支援に奔走しました。その結果、罹災した企業の復旧に貢献できただけでなく、ある工場では、復旧により使用可能となった食堂やお風呂を、その企業の社員とご家族に使っていただくことができたことと伺い、我々も胸が熱くなりました。過去には、東日本大震災においても、漏洩した石油回収のために緊急車両として現地入りしました。また、西日本豪雨災害、世界の石油タンカーや貨物船の環境汚染事故などにおいても、ダイセキは政府や自治体の要請に応じて救援や復旧支援にあたりました。

100年続く企業になるためには社会から必要とされる存在であり続けなければなりません。ダイセキは平時は、環境と経済を支えるインフラとして、災害・非常時には被災地の人々を支える復興・復旧のインフラとして、社会に貢献し続けていきたいと考えています。

## ■ 環境創造企業として進化を遂げる

2023年度のダイセキの連結売上高は692億円、当期純利益は94億円と、計画を達成し、過去最高を更新しました。国内鉱工業生産が伸び悩むなかでも、リサイクル処理の強みを活かし大手工場顧客のシェアを拡大したことで、廃液入荷量と再生燃料の売上高を伸ばすことができました。国内の製造業がカーボンニュートラルに取り組む中で、ダイセキの、廃棄物を燃やさない「リサイクル処理」と化石燃料を代替する「再生燃料」の需要が高まっています。当社はこのような需要に応えるため、2024年3月に広島事業所の新設、九州事業所のリサイクル燃料工場の増強を実施しました。今後も新事業所の開設を検討しています。そして、持続可能な社会の実現のためにダイセキはさらに進化していきます。

SDGsが目指すように世界中の人々が豊かな暮らしをするためには、あらゆる資源の無駄を見直す必要があります。それがダイセキが目指すサーキュラーエコノミーの姿です。私たちは「無駄」を見つけ、それを再生資源やメリットに変えることを得意としています。ダイセキは、カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーの分野で、持続可能な社会を実現するために「限られた資源を活かして使う『環境を通じ社会に貢献する環境創造企業』」として進化を続けていきます。

